

佐藤工業株式会社：卓越したトータルプロジェクトエクセレンス

160年の歴史を持つ佐藤工業株式会社は、日本国内はもとより、シンガポールをはじめとする東南アジア諸国においても、最高品質の建設を提供し続けている。



「我々は、トータルプロジェクトエクセレンスを基本理念に、満足度の向上、安全・安心で快適な空間の構築、質の高い社会基盤の整備に努めています」

佐藤工業株式会社
代表取締役社長
平間 宏

佐藤工業は、今年創業160周年を迎える日本を代表する建設会社として、全国に8つの支店と、シンガポール、マレーシア、タイ、カンボジアに海外拠点を持つ。「トータルプロジェクトエクセレンス」を基本理念として、国内外のさまざまな建築・土木プロジェクトに取り組んでいる企業だ。

「商業施設や機関投資家向けの建物、バイオサイエンス、製薬、航空宇宙、データセンター、半導体などの産業分野での建設に豊富な実績があります。土木分野では、橋梁、高架橋、トンネルなどのインフラ整備において、迅速かつ大規模で、技術的要求の高い、高品質のプロジェクトを実現する能力を実証しています」と語るのは代表取締役社長の平間氏。

佐藤工業のグローバルプレゼンスはますます大きくなっており、海外事業の売上高比率は約25%にまで達した。特に、半世紀前に事業を開始したシンガポール事業では、積極的な活動を展開している。「シンガポールをはじめとする東南

アジア市場での強みは、50年にわたる事業運営と実績です。納期を厳守し、プロジェクトを成功させるという強い信念のもと、シンガポールをはじめ東南アジアのお客様から信頼をいただいています」と平間氏は説明する。

「シンガポールにおける歴史は、シンガポールの中央ビジネス地区の玄関口であるユニークなベンジャミン・シアーズ橋から始まりました。シンガポールでは、橋梁や高架橋のプロジェクトをいくつか抱えており、マス・ラピッド・トランジット鉄道網の全線数の約10%、多数の駅を建設してきました。自慢のプロジェクトと言えば、シンガポールの西部にあるアメリカのIT企業向けに建設したデータセンターでしょう。2013年に1棟目が完成し、その後3棟を建設、2021年に最終棟が完成し、シンガポール最大のハイパースケールデータセンターになりました」

実際に佐藤工業のシンガポール事業は名誉ある賞を獲得している。というのも、2022年6月、高速鉄道ダウンタウン線第3期工事のベドックノース駅、マター駅、バンクーレン駅と関連トンネルのプロジェクトで、国土交通省の第5回JAPAN CONSTRUCTION国際賞を受賞した。バンクーレン駅は、シンガポール国内で最も深い地下43mに建設された駅として記録されている。

さらには将来的な高齢化・人口減少に伴う専門的な国内労働力不足を見据えてBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）などの技術の活用を企業として進めている。「我々は、人間によるエンジニアリングではなく、機械やコンピュータによるシステムに依存する方向へシフトするよう取り組んでいます。プロジェクトによっては、BIMを活用し、現場での工数をすでに削減しています」

今年2月にオープンした新しいテクノロジーセンターは、この進化の中核をなすものである。太陽光や地熱などの再生可能エネルギーを利用した施設となっており、同社のサステナビリティへのコミットメントを如実に表している。「同規模の一般的な建物と比較すると、22%のエネルギーで稼働しています」と平間氏は明かす。

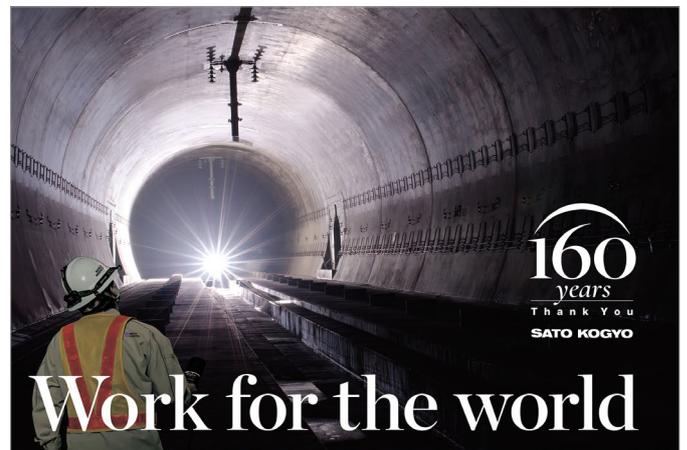
2020年には、環境省と共同でエコ・ファースト企業宣言を行った。「この宣言により、社員は環境先進企業の一員であるという意識を高めています。エコ・ファーストの目標は、CO2排出削減によるゼロカーボン社会、廃棄物削減による循環型社会、生物多様性保全による共生社会への



技術センターSOU

貢献と、社員の環境に配慮した行動の促進です」と平間氏もその影響を実感する。

「これらの目標は、国連が掲げる持続可能な開発目標の達成に直接貢献するものです。具体的には、建設現場でのCO2排出量を削減するハイブリッド型建設機械の活用や、省エネ性能を高めてCO2を削減するゼロ・エネルギー・ビルやゼロ・エネルギー住宅など環境配慮型的设计思想の導入などがあります」



Work for the world
of tomorrow.

